

## ●1960年代のロック

音楽的成熟と影響力の拡大

### a) イギリス出身バンドの台頭(イングリッシュ・インヴェージョン)

例: ローリング・ストーンズ「サティスファクション」  
ビートルズ「ロックンロール・ミュージック」(チャック・ベリーのカバー)

### b) ビートルズの変容

- ・アイドルからアーティストへ:コンサート・ツアーをやめてレコーディングに専念
- ・音楽的な成熟:プロデューサー、ジョージ・マーティンの影響  
その頂点が「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」  
ポピュラー音楽全体に影響を与えた歴史的アルバム
- ・その後  
インド思想への傾倒  
マネージャー、ブライアン・エプスタインの死、  
4人の方向性の違い  
→ 解散へ

### c) 社会的背景

- ベトナム戦争  
戦争に迫いやられる若者たちの不満
- 反体制、反戦運動
- 現実逃避 →ドラッグ文化(cf:「サージェント・ペパー」)
- 若者だけの共同体(ヒッピー文化)(cf: インド思想)

### d) ウッドストック音楽祭(1969)

社会運動としてのロックの象徴  
1969年の8月15日から18日朝までニューヨーク郊外で開催  
40万人を超える社会的イベントに  
登場アーティスト  
\*リッチー・ヘブンス  
ジョン・バエズ  
サンタナ  
グレイトフル・デッド  
クリーデンス・クリアウォーター・リバイバル  
\*ジャニス・ジョプリン  
ザ・フー  
ジェファーソン・エアプレイン  
ブラッド・スウェット・アンド・ティアーズ  
クロスビー、スティルス&ナッシュ  
\*ジミ・ヘンドリックス  
(\*は講義に収録)